

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア	イ
【知識・技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	【思考力・判断力・表現力】観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養っていく。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	ア授業中に行う練習問題やプリントの記入はできているが、定期考查の結果を見ると定着に課題がある生徒が多い。 イ既習事項や実験の結果をもとに、観察や実験の考察を行う力に課題がある生徒が多い。	ア知識・技能の定着ができるよう、振り返りの時間を設ける。教科書にある教材を用いて、視覚的に理解したり、実践したりできる課題を与え、繰り返し学習していく。 イ思考力・判断力・表現力を育成、定着できるよう、実験レポートの考察の評価、フィードバックを行う。自分で意見をもつ、他人の意見に触れる、模範的な解答に触れるなどして、思考力・判断力・表現力を養う。	毎回の授業	繰り返し復習する機会を設けることで、知識技能の定着を図ることができた。 実験レポートの評価をし、共有、フィードバックを行うことで記述力、考察力が身に付いた。
第2学年	ア小单元ごと的小テストでは高い得点率である。定期考查の結果を見ると、知識や技能の定着に課題がある生徒がいる。 イ指示された実験を行うことはできている。しかし、結果から考察する力に課題がある。	ア知識・技能の定着ができるよう、振り返りの時間を設ける。教科書にある教材を用いて、視覚的に理解したり、実践したりできる課題を与え、繰り返し学習していく。 イ考察するためにどのような点をしっかりと観察して記録する必要があるのか、実験中に明示すること、まとめの際に模範的な考察を共有することで学びの機会を設定する。	毎回の授業	また、繰り返し確認テストを行い、知識を定着させ、定期考查の得点率を伸ばすことができた。 振り返りシートを記入し、それを共有することを通して、考察に必要な記述力など、学習内容を振り返り改善に努める仕組みを定着させ、考察する力を伸ばすことができた。
第3学年	ア範囲の狭い小テストでは高い得点率である。定期考查の結果を見ると、知識や技能の定着に課題がある生徒がいる。 イ観察や実験の技能は身に付いていて、実験を行うことはできているが、その結果から考察することに課題がある生徒がいる。	ア知識・技能の定着ができるよう、毎時間振り返りの時間を設ける。授業で使用するスライドやプリントに教科書の図を使い、復習するときに教科書を活用できるようにする。 イ実験の目的を明確にし、何に注目して記録をする必要があるかを事前に確認する。考察を班で話し合い、自分の考察と他人の考察を比較し、修正する機会をつくる。	毎回の授業	毎時間授業の内容を主体的に振り返ることで、定期考查の得点率を伸ばすことができた。また、スライドのレイアウトを工夫した結果家庭学習でもスライドを利用する生徒が増えた。考察を班で話し合い、十分な時間を確保することで考察する力を伸ばすことができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

実験結果の記録、レポート提出を個々の状況に応じた方法により、行う。実験グループでの予想や結果の共有の際にタブレット端末上でのやり取り、班や個人の意見を全体で共有する際に必要とする場合に利用できる環境を整える。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・単元ごとに学習目標を設定し、見通しをもった学習活動ができる指導を行う。
- ・「単元を貫く問い」を作る授業を、有効と判断する単元では実施し、生徒が学ぶ目的を明確にして授業に臨めるようにする。
- ・前時の復習や単元末小テストを行い、振り返りかつ繰り返し学習により学習内容の定着を図る。